

第3次町田市地域福祉計画（素案）  
パブリックコメント実施結果

地域福祉部福祉総務課

2016年10月

# 第3次町田市地域福祉計画（素案）

## パブリックコメント実施結果

「第3次町田市地域福祉計画」の策定にあたり、下記のとおり意見を募集いたしました。貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。ご意見は本計画の策定および今後の市政の参考にさせていただきます。

### 1 募集期間

2016年7月1日～2016年7月30日

### 2 意見の募集方法

町田市ホームページへの資料掲載の他、公共施設で資料の閲覧・配布を行いました。

### 3 お寄せいただいた意見の内訳

4名の方から10件のご意見をお寄せいただきました。

※とりまとめの都合上、いただいたご意見は要約し掲載しています。また、同様のご意見は集約しています。  
ご意見の概要と市の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	<p>子どもは未来の大切な宝である。すべての人が快適に過ごせるように、駅を中心にはもっと多くの緑が必要であり、緑のある安らぎのスペースがあるとよい。パチンコや風俗は子どもにとってよくない。子どものための環境を考えていくことが重要である。(同様他1件)</p>	<p>本計画の上位計画である町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」では、基本目標の1つに「将来を担う人が育つまちをつくる」ということを掲げています。今後も本計画のみならず、市全体として子育て家庭を支えるための取り組みや、子どもの生きる力をはぐくむ取り組み、誰もが自ら学び、その成果をまちづくりに活かすことを目指します。</p> <p>また、すべての人が、安全で安心して、快適に住み続けることができるまちを目指して、福祉のまちづくりを推進します。</p> <p>いただいたご意見は、具体的な施策を検討する際の参考にさせていただきます。</p>
2	<p>市内にゴミ屋敷になっている空家があるので、対応が必要である。</p>	<p>空家問題の対応にあたっては、所有者の意向や当該空家の状態に応じた情報提供を行うなど、空家対策の推進に向けて対応してまいります。</p>
3	<p>公園で急に子どもの顔をさわってきたり、手を引っぱって、食事に行こうと連れていこうとした人がいた。もっと子どもが安心して暮らせるまちづくりをしてほしい。</p>	<p>安心して子どもを育てられるよう、地域の方や警察等の関係機関と連携しながら、防犯体制の充実に努めてまいります。</p>

4	<p>計画の基礎的な考え方として自治会・町内会を中心に据えているが、自治会に未加入の残り半数の住民のプロジェクトへの取り込みを考えていく場が必要である。現在の自治会への加入促進とは別の形で住民参加の促進が必要である。</p>	<p>本計画の地区活動計画の地区割りは、町内会・自治会連合会の地区割りを基本としていますが、計画の推進にあたっては、町内会・自治会だけでなく、民生委員・児童委員、老人クラブ、ふれあいサロン、ボランティア団体、NPO法人、福祉施設、企業、地区社協等、多様な団体の参加、連携が必要だと考えています。</p> <p>そのため、今後も継続して各地区で懇談会を開催し、多様な団体や多くの地域住民が共に地区の課題を考えていく場を設けていくことを目指します。</p>
5	<p>民生委員協議会の区割り、包括支援センターの担当地区、自治会連合会の区割りが一致しておらず、現場の活動のしにくさにつながっている。</p> <p>また、住民の日常生活感から言うと「木曾山崎団地地区」が「忠生」と「町田第2」に振り分けられていることは了解できない。</p>	<p>本計画では、町内会・自治会連合会の地区割りを基本として、各地区で懇談会を開催しながら、多様な団体等の連携を強化し、ネットワークを構築することを目指します。</p> <p>地区割りのあり方については、ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>福祉人材の育成・確保は必要性が高いが、失業者対策になりがちで、高い専門性を要求されるプロの業務だという認識がなくなっていることを感じる。</p>	<p>福祉人材の確保に努めるとともに、町田市介護人材開発センターや社会福祉協議会と連携しながら、福祉サービス提供事業者向けの研修を実施し、福祉人材の資質及び専門性の向上に努めます。また、福祉サービスの質を確保するため、事業者への指導強化、苦情相談窓口の運営等を行います。</p>
7	<p>町内会・自治会にこれ以上の仕事を負わせるのは難しいと感じる。</p>	<p>地区の課題は、町内会・自治会だけではなく、市をはじめ、地域を構成する様々な団体、住民の共通の課題です。市としては、今後も各地区で懇談会を</p>

		開催し、多様な団体、住民が共に地区の課題を考えていく場を設け、各参加者が連携しながら、地区の課題解決に取り組んでいくことを目指します。
8	<p>子どもと高齢者は一緒にせず、それぞれサポーター制度を充実させる必要がある。子どもサポーターには子育て中の親、高齢者サポーターには現在の介護予防サポーターを中心に団塊の世代の力を結集できるとよい。そしてサポーターと市が直接連携することで本当の意味でのサポートになる。</p> <p>市は、経費削減、効率化の名目で外注化・委託化が急激に行われているが、子どもや高齢者対応については直接行政がかかわる体制をつくらなければならない。</p>	<p>今後は市と社会福祉協議会の共同で継続的に地区別の懇談会を開催し、多様な団体や多くの住民が共に地区の課題を考えていく場を設けていくことを目指します。これは市と社会福祉協議会も参加しながら、地区別の多様な団体（高齢者の支援、子どもの支援をしている団体も含みます）の連携を進めることも目的となっています。</p> <p>地区別の懇談会では、高齢者や子どもの見守り・支援の方法等も検討課題として考えられます。その際に、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
9	<p>地区別計画の地区割りを高齢者支援センターの担当地域に合わせた方がよい。各高齢者支援センターでも地域ケア会議等で地域の課題抽出と解決のための社会資源、ネットワークづくりに努力している。そのため、地域が重なっていないと連携が難しくなる。</p>	<p>本計画では、町内会・自治会連合会の地区割りを基本として、各地区で懇談会を開催しながら、多様な団体等の連携を強化し、ネットワークを構築することを目指します。</p> <p>地区割りのあり方については、ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。</p>